



発行所 柏崎日報社
柏崎市西本町1丁目6-1
〒945-0066 電話22-3121
専売所 柏洋社 電話22-3443
1部100円 1カ月2,650円

柏崎の農産物大好評

東京・蒲田で野菜まつり

柏崎産の米、もち、野菜 十五・二十六日の二日間、業ラザで「にいがた・柏を売り込もうと、十一月二

東京・蒲田にある大田区産 崎 野菜まつり」が開かれ、大勢の来場者でにぎわった。

市や農協、県では近年、柏崎産米のブランド化、伝統野菜・特産野菜の知名度アップ、栽培拡大に取り組んでいる。中越沖地震からの復興もアピールするため、柏崎市担い手育成総合支援協議会(会長 今井長司・柏崎農協経営管理委員会会長)が中心になって昨年

年から東京でのPR販売を開始。今年は、下町の雰囲気残り、全国の物産展も多く開かれる大田区産業ラザを選んだ。

二日間で三千人を超える人が来場し、コシヒカリの新米プレゼントに長蛇の列。カリフラワー、ネギ、

ハクサイ、ダイコンなどの野菜も飛ぶような勢いで売れ、最初に持ち込んだ十トトラック三台分のほとんどを初日に売り切ったため、急ぎ、七十箱分の野菜を追加で陸送。これも二日目の昼過ぎにはなくなり、「最後は頭を下げるのが仕事でした」と市の係員。コシヒカリおにぎり、つきたてもちのおいしさが好評で、試食後に米を買い求めてアンケート用紙に記入する人も多かった。また、語り部の会の人たちの昔話にリクエストが寄せられたという。

「柏崎の知名度はまだ足りないが、『新潟の食』のイメージが首都圏で定着していることを実感した。ポストインしたチラシの効果、来場者による口コミのすばさを感じた」と参加者。市ではアンケートに答えてくれた人にダイレクトメールを送り、柏崎産米のファンを増やしていきたいとしている。

第7回原発立地議会サミット 来年11月に東京で

第七回全国原子力発電所立地議会サミット(同立地

の前回と同じ。

市町村議会議長会主催)が来年十一月十六・十七日に東京・品川プリンスホテルで開かれることがこのほど決まった。齋木裕司・柏崎市議会議長が会長を務める立地議会議員会が確定した。会場は二〇〇八年度

原発立地議会サミットは、原子力への賛否を超えて議員同士が議論しようとして、柏崎市議会の提唱で一九九七年に創設。隔年で開かれてきている。今回の実行委員長は中国電力島根原発の地元である松江市の議長。議長会事務局の柏崎市



柏崎産の農産物をPRした東京・蒲田での「野菜まつり」